



新羽小だより

令和5年(2023年) 1月31日

第585号

横浜市立新羽小学校

Tel 543-8871 Fax 543-2915

ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/nippa/>



「未来の姿」

副校長 浅川 聡子

5年生の教室をのぞくと、みんな真剣な表情で、iPadの画面に向き合っています。国語「グラフや表を用いて書こう」の授業の光景です。「何をしているの?」と尋ねると、「私は、『社会はくらしやすい方向に向かっているのか』という課題を選択して、自分の意見を打ち込んでいます。」と答えてくれました。もう一つの課題は『日本は、農家にとって働きやすくなっているのか』。社会科の学習と絡めて課題が設定されています。どちらかを選択し、iPadのロイロノートで配信されたワークシートに、自分の意見と理由を打ち込みます。今回の学習では、理由の根拠となるグラフや表を探して貼り付け、文章を対応させて、意見文を作成します。

一人1台iPadが貸与されてから、1年半ほど経ちました。子どもたちは、ノートや鉛筆といった学習道具と同じようにiPadを使い、学習を進めています。生まれた時からスマートフォンが身近にあり、小学生でパソコンやインターネットを使いこなす。Z世代・α世代と呼ばれる子どもたちは、社会の変化に合わせてしなやかに成長しています。

学校の学び方にも変化があります。「みんな同一」から「協働的な学びと個別最適な学びの両立」へ。先ほど紹介したクラスでは、ワークシートが選べます。担任が書き込む量を調整し、4種類のワークシートをつくり、子どもが選ぶことができるのです。紙に書く方法でもかまいません。「これならできそう。」「これにチャレンジしたい。」そう思えると、子どもは進んで取り組みます。また、单元ごとに学ぶ内容と身に付ける力を示し、いつまでに、どのようにやるのか伝えます。すると子どもは、自分で調整しながら学習を進め始めるのです。始めはうまくいかないこともあります。しかし、そこでコミュニケーションが生まれ、一人ではできないことも、力を借りればできることや、友達と話すことで、自分の考えが広がったり、深まったりすることを学んでいくのです。

先ほどの5年生にもう少し質問をしました。「あなたの考えは?」。すると、資料を指さしながら、目を輝かせて自分の考えを話してくれました。堂々としたその姿に、明るい未来が見えた気がしました。

解決が難しい社会問題。進むデジタル社会。答えが一つではない問いに向き合い、力強く生きていく力を育成するために、学校は、チャレンジしたくなる学習課題・自分の考えをもち表現する授業づくり・友達の考えを受けとめ、尊重する学級づくりを実践し、子どもたちと向き合っていきます。知恵を出し合い、子どもたちと共に成長していく教職員でありたい。そう強く思いました。

